

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「自由と規律」のもと、人間尊重に徹した、真に国際社会に通用する「明るく、たくましく、心豊かな人間」を育成する。

1. キャリア・アップ（より高い資質や能力を身につける）をめざして夢・目標を主体的に見つけようと努力し、進路実現に向けてまじめに積極的に取り組む生徒を育てる。
2. 授業だけでなく、学校行事や部活動・ボランティア活動にも意欲的に参加する生徒を育てる。
3. 挨拶や社会のマナーを大切に、社会に貢献する人になる意欲のある生徒を育てる。

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成

- (1) 「わかる授業、考える授業」をめざし授業力向上に取り組む。

ア 授業力向上委員会（仮称）を核に相互授業観察、研究授業などの計画的実施、授業アンケートの効果的活用など、授業力向上に組織的に取り組み、ICT機器を活用した効率的な授業についても研究を進める。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成28年度56%）を毎年3ポイント引上げ、平成31年度には65%にする。

2. 夢と希望を持つ生徒育成

- (1) 生徒の希望する進路の実現に向けて、組織的・計画的な進路指導体制を確立する。

ア 3年間を通して継続的かつ計画的に進路指導に取り組む、大学・短大、専門学校および職業などについてキャリア教育を行う。

イ 3年間を通して計画的な講習の実施により、早期から進路実現に向けて努力させる。

※進学率85%以上（平成28年度84.5%）、未定率2%以下（平成28年度1.7%）を維持する。

- (2) 「総合的な学習の時間」とLHRを有機的に連携させ、キャリア教育、人権教育等を総合的に行うことができる指導計画を確立する。

※生徒向け学校教育自己診断における進路に関する情報提供（平成28年度69%）を毎年2ポイント引上げ平成31年度には75%にする。

※生徒向け学校教育自己診断における人権について学ぶ機会（平成28年度47%）を毎年2ポイント引上げ平成31年度には53%にする。

- (3) 保護者向け進路説明会の実施および保護者への進路情報の提供

ア 内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画、実施すると共に、進路情報を積極的に発信する。

※保護者向け学校教育自己診断における進路に関しての情報提供（平成28年度50%）を毎年3ポイント引上げ平成31年度には59%にする。

3. 安全安心で魅力のある学校づくり

- (1) 生徒の規範意識を醸成すると共に、個々の生徒への支援体制を強化する。

ア 朝の職員連絡会やSHRを通して、生徒の状況を把握し、基本的な生活習慣の改善指導を行い、欠席や遅刻を減少させる。

イ 教育相談体制を充実させ、生徒や保護者そして教職員も安心して相談できる体制を作る。

ウ 互いの違いを認め合い、「ともに生きる」精神を育成し、学校に来るのが楽しいと感じる環境を作る。

※遅刻（平成28年度3955件）を毎年100件ずつ減少させ、平成31年度には3700件以下にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「先生は悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」（平成28年度53%）を毎年2ポイント引上げ平成31年度には59%にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「学校へ行くのが楽しい」（平成28年度67%）を毎年2ポイント引上げ平成31年度には73%にする。

- (2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己肯定感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。

ア クラブや文化祭などの生徒の自主的な活動を活性化させるために、仲間と協力して内容の充実をめざすよう教職員が支援する。

※生徒向け学校教育自己診断における「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」（平成28年度52%）を毎年2ポイント引上げ平成31年度には58%にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「体育大会は楽しく行えるよう工夫されている」（平成28年度44%）を毎年2ポイント引上げ平成31年度には50%にする。

- (3) 生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう保護者との連携および環境の整備を行う。

ア 保護者との連絡を密にし、生徒が安全・安心に学校生活を送られるようにする。

イ 事故防止の取り組みを進めるとともに、緊急事態発生時の連絡体制の徹底を図り、適切かつ円滑な対応ができるようにする。

※職員向け学校教育自己診断における「事故・事件等に迅速・適切に対応」（平成28年度58%）を毎年2ポイント引き上げ平成31年度には64%にする。

4. 地域・保護者と連携した学校づくり

- (1) 学校 Web ページを充実させ広報活動に努める。

ア Web ページおよびブログを定期的に更新し、本校の取り組みを地域・保護者に発信する。

※保護者向け学校教育自己診断における「学校は教育情報について提供の努力をしている」（平成28年度56%）を毎年2ポイント引き上げ平成31年度には62%にする。

- (2) 地域との連携に取り組む

ア KEYS（貝塚警察署との連携した活動）等のボランティア活動を継続発展させる。

イ 地域の学校等との連携を活発に行う。

- (3) 広報活動を活性化し、本校の取り組みを中学生や保護者、地域に発信する。

ア 本校で実施する学校説明会をさらに充実させると共に、外部の学校説明会などにも積極的に参加する。

イ 全職員で中学校訪問等を行い、広報活動を行うと共に、中学生や保護者のニーズをつかむ。

5. 教職員の資質向上と意識改革

- (1) ICT を活用して校務の効率化を図る。

ア ICT 機器を効率的に活用し、さまざまなデータの共有・情報共有を行うと共に、事務作業等の軽減化を図る。

- (2) 校内での教職員研修を積極的に行うと共に、外部で実施される研修等にも積極的に参加する。

ア 教職員の資質向上をめざした教員研修を計画的に実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】今年度は授業力向上委員会を立ち上げ、府のパッケージ研修支援Ⅱも活用しながら、研究授業は授業観察等を積極的に行った。生徒アンケートで「授業がわかりやすい」の肯定的回答は58%と昨年度よりも2ポイントアップしたが、まだまだ数値的には低いので、ICT機器なども活用することにより、さらに授業力向上に取り組んでいく。教職員アンケートで「授業方法を研究する機会を積極的に持っている」のよくあてはまるの回答が昨年度よりも約9ポイントアップしたのは上記の取り組みの成果と考えられるので、継続して実施したい。</p> <p>【生徒指導等】生徒向けアンケートで「先生の指導は納得できる」の肯定的回答は55%と昨年度よりも約4ポイントアップしたが、約12%生徒はまったくあてはまらないと回答しているため、さらに納得させる指導に取り組むたい。生徒用アンケートで「悩みごとや相談を聞いてくれる」の肯定的回答は約70%と昨年度より約17ポイントアップした。これは今年度教育相談体制を見直し、生徒が気軽に相談室を利用できる体制を作ったことによると考える。今後もさらに充実した環境を作っていくたい。</p> <p>【学校運営等】生徒アンケート「人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的回答は約79%と昨年度よりも約33ポイントアップした。今年度人権教育を推進する体制を変え、HR等での人権教育の機会を増やしたことによると考えられる。今後も継続して充実させていきたい。生徒アンケートで「文化祭は楽</p>	<p>第1回（6月22日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路実績や学校施設の充実化など中学校等の外部に発信してもらいたい ・クラブ等で発表の場を増やしたり、外部講師を招聘したりすることで、加入率の増加につとめてはどうか <p>（報告が中心となり意見をいただく時間が少なかった）</p> <p>第2回（6月22日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の設置が遅れたようだが、今後の取り組みに期待している。 ・合唱コンクールや百人一首大会など、卒業しても思い出に残る行事である。学校の活性化にも繋がるので、いい意味での競争ができる取り組みを今後も考えてもらいたい。 ・学校教育自己診断や授業アンケートの結果を待つが、今のところ順調に進んでいると思われる。 <p>第3回（2月15日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の子どもが楽しく高校生活を送ることができたのは、先生方が温かく見守り指導してくださったおかげだと思っている（保護者として）。 ・今後、海外修学旅行を継続的に行う予定とのことだが、事前学習や交流を通じて、より

<p>しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答は約 66%と昨年度より約 15 ポイントアップした。これは文化祭の生徒招待を拡大したことや、内容充実に取り組んだことからだと考えられるので、今後も継続して取り組んでいきたい。生徒アンケートの「クラブ活動は活発である」の肯定的回答が 65%と昨年度より約 1 ポイントダウンした。クラブ加入率が低いことと合わせ、今後もクラブ加入に向けての取り組みと、活動内容の充実が課題である。</p>	<p>実り多いものとなるよう準備をして欲しい。 ・学校教育自己診断の保護者からの意見で、自習室を作って欲しいと出ているが、今の学生は家でなかなか学習ができないので、自習室を用意してはどうか。</p>
---	---

3 本年度の取組内容および自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業・考える授業」をめざした授業力向上 ア 授業力向上委員会の編成</p> <p>イ 授業アンケートの効果的活用</p> <p>ウ ICT 機器を活用した授業の研究・実施</p> <p>エ 少人数展開授業の効果的実施</p> <p>オ 図書館の活用および読書活動の推進</p>	<p>(1) ア 授業力向上委員会（仮称）を編成する相互授業観察、研究授業を計画的に実施する</p> <p>イ 授業アンケートを実施し、各教員が結果を分析し、「授業アンケート結果分析シート」を作成する</p> <p>ウ ICT 機器を活用した授業力向上について研究を進め、ICT 機器を活用した研究授業を実施学校経営推進費等の支援を受けて、全教室にプロジェクトを設置し活用</p> <p>エ 国語、数学、英語の少人数展開授業を生徒の学力に応じたものとなるように充実する特に数学、英語については習熟度別に実施</p> <p>オ 図書館を授業や総合的な学習の時間で多目的に活用すると共に、図書館の利用を促す図書館の図書に充実を努め、生徒の読書活動を推進する</p>	<p>(1) ア 授業観察週間の実施、授業の相互観察を年間延べ 180 回以上 (H28 160 回)</p> <p>イ 2 回の授業アンケート実施後に「授業アンケート結果分析シート」を提出する 学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定的回答 (H28 56%) 60% 以上 第 2 回授業アンケートの「興味関心を持つことができた」のよくあてはまる (H28 27.1%) 30% 以上 第 2 回授業アンケートの「知識技能が身についた」のよくあてはまる (H28 28.6%) 32% 以上</p> <p>ウ ICT 機器活用に関する研修を 2 回以上実施する (H28 1 回) ICT 機器を活用する教員の割合 (H28 49%) 60% 以上</p> <p>エ 授業アンケートにおける「知識や技術が身についた」のポイントが同学年同教科の中で高い結果 (H28 第 2 回英語以外)</p> <p>オ 学校教育自己診断(生徒)の「図書館の利用」の肯定的回答 (H28 14%) 20% 以上 校内読書感想コンクールの継続実施</p>	<p>(1) ア 授業力向上委員会を立ち上げ、委員会が中心となり、研究授業 9 回実施、授業相互観察延べ 191 回実施。次年度も継続し、授業力向上に取り組む(◎)</p> <p>イ 授業アンケート実施後集計結果等配付、全教員が「授業アンケート結果分析シート」を提出、「授業が分かりやすい」の肯定的回答 58%、「興味関心を持つことができた」のよくあてはまるの回答 29%、「知識技能が身についた」のよくあてはまるの回答 30%。次年度は各教室に設置された ICT 機器をさらに活用し分かりやすく効率的な授業をめざす(○)</p> <p>ウ ICT 機器活用に関する研修を 3 回実施 ICT 機器を活用する教員の割合 (H28 49%) 52%。次年度は教室に設置された ICT 機器をさらに有効活用する(○)</p> <p>エ 国語(古典 2.8・現国 2.9)、数学(数Ⅰ 3.1・数 A 2.8 数Ⅱ β 3.0・数他 3.0)、英語(英表Ⅰ 2.98・コミュ英Ⅰ 3.1 英表Ⅱ 3.0・コミュ英Ⅱ 3.1)と 2/5。次年度は習熟度別授業の実施方法をさらに検討する。(△)</p> <p>オ 「図書館の利用」の肯定的回答 17%、夏季休業中の課題として校内読書感想コンクールを実施、1・2 年は全員提出、3 年は希望者提出、その中より大阪府人権作文コンクールおよび青少年読書感想文コンクール(1 名が優秀賞受賞)に応募、校内で優秀作品等表彰。次年度は図書館の利用促進に向けて、図書委員の活動をさらに活発にする(○)</p>

府立貝塚南高等学校

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
2 夢と希望を持つ生徒育成	(1)生徒の希望する進路の実現 ア 3年間を通して進路指導に取り組む	(1) ア 3年間を見通した指導に取り組み、入学後早い段階からHRや総合的な学習の時間等を通じて、計画的にキャリア教育を行う	(1) ア HRでの取り組み各学年4回以上実施(H28 1年4回2年5回3年2回)	(1) ア HRや総合的な学習の時間を活用し、進路講演会や進路HRなど、1年5回、2年5回、3年3回実施。次年度は内容をさらに充実(◎)
	イ 計画的な講習の実施	イ 進路目標達成に向け、進路指導部が中心となり、進学や就職のための説明会を計画・実施する	イ 説明会は各学年、目的別で合計30回以上実施(H28 33回)	イ 12年保護者に対しては進学保護者説明会等2回実施、説明会は3年生中心に30回実施。次年度は12年への説明会を充実させる(○)
	ウ 進路情報の積極的な発信	ウ 進路だよりや進路説明会などを通して、最新の進路情報を積極的に提供し、進路に対する理解を深める	ウ 学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答(H28 69%)71%以上	ウ 「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答72% 進路だよりの発行、進路HR、進路説明会の実施。次年度も継続的に実施(◎)
	エ 生徒情報の共有	エ 生徒の学力推移、進路希望等の情報を学年・教科・分掌間で共有し、希望する進路に応じた講習や面接指導を実施する	エ 各学年進学講習1年30回、2年77回、3年250の計350回以上(H28 389回) 学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」の肯定的回答(H28 60%)63%以上	エ 各学年進学講習1年23回、2年77回、3年214の計314回 学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」の肯定的回答60%。次年度は内容の充実を行いながら継続して実施する(△)
	(2)コミュニケーション能力の育成 ア 班活動や発表機会を増やす	(2) ア 各授業、HR、総合的な学習の時間、学校行事などを通じて、班活動の実施や生徒が発表する機会を増やす	(2) ア 学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答(H28 51%)55%以上	(2) ア 「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答55%。次年度も授業力向上に取り組む中で、生徒が発表する機会を設けていく(○)
	(3)保護者への進路情報の提供 ア 保護者向け進路説明会の内容充実 イ 保護者への進路情報の積極的な発信	ア 保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画する イ 進路だよりなど保護者への情報提供も見据えて作成すると共に、メール配信なども活用して、保護者に確実に情報が伝わるようにする	ア 保護者向け進路説明会への参加(H28 128名)140名以上 イ 学校教育自己診断(保護者)の「進路に関しての情報提供」の肯定的回答(H28 54%)57%以上	ア 保護者向け進路説明会への参加157名。次年度は内容の充実を行いながら継続して実施する(◎) イ 「進路に関しての情報提供」の肯定的回答56%。次年度はメール配信も行いながら情報提供を徹底する(○)

府立貝塚南高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
3 安全安心で魅力のある学校づくり	(1) 生徒の規範意識の醸成と支援体制の強化 ア 職員室の効率的な活用による指導力向上	(1) ア 職員室を効率的に活用し、日常的に生徒情報の共有を図ると共に、担任・副担、学年団などでの OJT を通じて、教員の指導力向上を図る	(1) ア 毎朝職員連絡会を実施すると共に、定期的に担任会、学年会などを実施	(1) ア 職員連絡会を毎朝実施。全体→学年→担任等有効に活用。その他学年会・担任会の定期的実施。次年度継続して実施し、情報共有および OJT に取り組む(◎)
	イ 登校指導等を通じて、規律指導を行う	イ 朝の登校指導や朝の SHR などを通じて、遅刻・服装・頭髪指導などの規律指導を行う ・指導の際に生徒が納得するよう丁寧に指導する	イ 朝の登校指導や昼休みの指導の継続実施 年間述べ遅刻回数(H28 3955回)3900回以下を目標とする 学校教育自己診断(生徒)の「先生の指導は納得できる」の肯定的回答(H28 51%)53%以上	イ 管理職および生徒指導部で日常的指導、その他全教員により登校指導や昼休みの指導、2 学期末遅刻回数 4142 回(1 年 832 回、2 年 1769 回、3 年 1541 回)、「先生の指導は納得できる」の肯定的回答 55%。次年度は 2 学期後半から 3 学期にかけて生活が乱れがちになる生徒への指導を担当だけでなく学年や生活指導部で行う(△)
	ウ 教育相談・支援体制の充実	ウ 教育相談委員会が中心となり、生徒が気軽に相談室を活用できるようにする ・支援が必要な生徒についてのケース会議を行い、生徒支援に積極的に取り組む	ウ 学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答(H28 53%)55%以上	ウ 相談室を模様替え、生徒が相談しやすい雰囲気、ケース会議 3 回実施、SC の活用 9 回 134 人 「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答 70%。次年度も環境整備に努めると共に、生徒への利用を促す(◎)
	(2) 特別活動を通じ、豊かな高校生活を実現させる ア 部活動入部率の向上と部活動の活性化	(2) ア 新入生対象の部活動紹介や体験入部を通じ、部活動入部率の向上と部活動の活性化を図る	(2) ア 1 年生全員が体験入部。その後も継続的に加入勧誘。 部活動加入率(H28 51%)52%以上	(2) ア 部活動紹介は生徒会が中心となり充実実施、1 年生全員が入部体験、部活動加入率 2 学期末 48.1%(1 年 56%)。次年度は部活動紹介等を今年度と同じ形式で実施し、内容を充実させる(△)
	イ 学校行事の活性化	イ 生徒のニーズをつかみ、その実現により文化祭等の行事を活性化する	イ 学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫」の肯定的回答(H28 52%)54%以上	イ 「文化祭は楽しく行えるよう工夫」の肯定的回答 66% 合唱コンクール(1 年)、百人一首大会(2 年)実施など。次年度も文化祭の内容を充実させると共に、学年行事などさまざまな生徒が活躍できる場を作っていく(◎)
(3) 保護者との連携および環境の整備	(3) ア 日常的に家庭との連絡を密にし、保護者との連携により、生徒の指導や支援を行う イ 校内の危険個所のチェックを行い、改修に努める	(3) ア 学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答(H28 50%)52%以上 イ 学校教育自己診断(職員)の「施設・設備についての点検・管理」の肯定的回答(H28 54%)56%以上	(3) ア 学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答 59%。次年度はメール配信の登録者を増やすための工夫をし、日常的な連絡が保護者に伝わるようにする(◎) イ 学校教育自己診断(職員)の「施設・設備についての点検・管理」の肯定的回答 54%。次年度も継続して安全点検等を行い、必要に応じて機器の補修、入れ替え等を行い、安全確保に努める(△)	

府立貝塚南高等学校

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
4 地域と連携した学校づくり	(1)開かれた学校作り ア 学校 Web ページ、 ブログによる情報発信	(1) ア 広報委員会が中心となり、学校 Web ページ およびブログの情報更新を活発に行う	(1) ア ブログの更新を積極的に行い年間 180 回以上更新 Web ページのアクセス数 13000 アクセス 以上	(1) ア ブログの更新 186 回、Web ページ のアクセス数 29,197 アクセス。次年度 も継続実施し、内容の充実を図る (◎)
	イ メール配信の活用	イ メール配信システムを効率的に活用し、保 護者への情報発信を行う	イ メール配信を活用し、日常的に情報 発信し年間 100 通以上	イ 緊急連絡や配布プリントの連絡 等メール配信 63 通配信。次年度も継 続すると共に、配信回数を増やす (△)
	(2)地域への情報発信 ア ボランティア活動 の継続発展	(2) ア 貝塚警察署との連携ボランティア (KEYS) の継続発展実施	(2) ア 年間 6 回以上の活動を実施	(2) ア 田植え、かかし作り、非行防止キ ャンペーンへの参加等 8 回の活動。 次年度も継続実施し、取り組み内容 を充実させる(◎)
	イ 地域の学校等との 連携	イ 近隣の保育園での保育体験実習の継続発 展実施 部活動等を通じて地域との連携を図る	イ 保育体験実習を継続実施。年間 10 回以上 中学校や地域との連携した活動とし て、年間 5 回以上の活動を行う	イ 保育体験実習を 1～3 年の希望者 対象に 2 回(60 名)、3 年授業(生活文 化)で 10 回(延べ 271 名)、計 12 回。 (延べ 331 名)実施、吹奏楽部が貝塚 熊取吹奏楽祭などさまざまな機会 で演奏等を行い地域文化の振興に貢献 (11 回)。次年度も継続実施し、活動 内容を充実させる (◎)
	(3)広報活動の活性化 ア オープンスクール 等学校説明会の実施	(3) ア 部活動オープンスクール、体験授業オー プンスクール、文化祭の公開などを通じて、中 学生向けに本校の取り組みを発信する	(3) ア 部活動オープンスクールおよび体 験授業オープンスクールへの参加者 280 名以上	(3) ア 部活動オープンスクール 124 名、 体験授業オープンスクール 170 名、 文化祭(保護者 311 名、中学生 59 名、 卒業生 92 名、生徒招待 149 名、他 12 名、計 623 名参加 H28 555 名)。 次年度もより多くの中学生や保護者 の学校を知ってもらえる取り組みを 図る (◎)
イ 中学校訪問等を通 じた広報活動	イ 全職員で広報活動としての中学校訪問を 実施し、広報活動を行うと共に、中学生・保 護者のニーズをつかむ	イ 広報委員を中心とし、全教員で中学 校訪問を行う	イ 合格発表後、オープンスクール前 など全教員により実施、校外の学校 説明会にも積極的に参加。次年度は 中学校訪問の実施方法について検討 する(◎)	

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
5 教職員の資質向上と意識改革	(1)ICT 機器を活用した校務の効率化 ア ICT機器を活用し校務の効率化を図る	(1) ア 統合 ICT の共有フォルダの活用など、データを共有化させることにより、教科・学年・分掌等それぞれの情報を共有し、校務の効率化を図ると共に、校務を組織的かつ継続的に行う	(1) ア 学校教育自己診断(職員)の「職員間での情報共有ができています」の肯定的回答(新規)50%以上	(1) ア 「職員間での情報共有ができています」の肯定的回答 70% 共有フォルダ内に保健室来室情報、生徒情報等を入力し、さまざまな情報の共有に努めている。次年度も ICT 機器も活用しつつ、生徒情報の共有、仕事のスムーズな引継ぎ等に向けて取り組んでいく(◎)
	イ 校務処理システムの活用	イ ICT 機器や校務処理システムを効率的に活用し、事務作業の軽減化を図る	イ 学校教育自己診断(職員)の「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率を図ることができた」の肯定的回答(新規)50%以上	イ 「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率を図ることができた」の肯定的回答 64% 従来の成績処理システムから校務処理システムを活用した成績処理に移行。次年度もさらに効率的な活用を実施し、他の業務の見直しも含め、働き方改革に取り組む(◎)
	(2)教員研修実施、授業見学や外部実施研修への積極的参加 ア ニーズに合った教員研修の実施	(2) ア 教員の資質向上をめざした教員研修の実施、若手教員を中心とした勉強会の積極的実施	(2) ア 職員研修 6 回(H28 6 回)以上、若手勉強会 8 回(H28 8 回)以上実施 他校への授業見学を含めた研修会を 1 回以上実施(H28 1 回)	(2) ア LGBT 研修、ICT 機器活用研修、授業力向上研修等 12 回実施、差別事象への対応、保護者対応、危機管理、不登校防止等若手勉強会 11 回実施 他校への授業見学を含めた研修会 1 回実施。次年度も継続実施し、教員の資質向上に努める(◎)
イ 他校への授業見学等	イ 他校への授業見学や授業研究に関する研修会等への積極的参加	イ 他校への授業見学や授業研究に関する研修会等へ 25 名(H28 29 名)、校内での研究授業 5 回(H28 6 回)以上	イ 他校への授業見学や授業研究に関する研修会等へ延べ 27 名参加、校内での研究授業 7 回。旅費の削減についても課題ではあるが、教員としての指導力向上は重要であるから継続して参加を勧めていく(◎)	